

特別支援教育・ 精神疾患の理解啓発について

生活者ネット・市民クラブ 多良 京孝子

問) 教育委員会が来年度策定を予定している特別支援教育基本計画の改訂版(仮称)に様々な立場の当事者の声を反映させる必要がある。そのためには策定委員に特別支援学級、通級指導学級、特別支援教室、介助員制度利用者の保護者等幅広い人選が不可欠。インクルーシブの視点から通常級の保護者、福祉的視点から地域の関係者にも入っていただく必要があると考える。教育長) 指摘を参考にした人選に努める。

問) 特別支援教育を進める上で、一斉授業における介助員の果たす役割は極めて大きい。市独自の取り組みとして進められてきた現在の介助員の業務は身辺介助のみとなっている。計画改訂においては学習支援も含めた幅広い業務内容での位置づけをするべきである。いかがか。

教育長) 国でも同様の制度ができる。支援の中身を広げることは検討されるべき問題である。

問) 来年4月開設予定の3中の特別支援学級を情緒障がいクラスにと要望してきたが、知的障がい学級と決定された。「一人ひとりの教育的ニーズに合った個別の支援」を基本に、情緒的な支援が必要な生徒への対応の保障を。

教育長) 基本的にどこでも一人ひとりに沿った教育ができるように学校は努力をしていく。

問) うつ病をはじめとして精神疾患の急増が社会問題化しているが、正しい理解啓発がなされていない現状がある。発症が中高生時期に多いことから学校教育の中で学習する必要がある。教育長) 遅れているのが実態。質問を受けて取り上げていく必要を感じた。進めてまいりたい。

国分寺の持つ魅力を 生かしていける政策を!

新政クラブ 田中 政義

1. 都市計画道路3・2・8号線開通による交通渋滞について

問) 終点部となる五日市街道の交通量増加が懸念される。抜本的な対策として、五日市街道を西側の方まで拡幅していただきたいと思うが。都市計画担当部長) まずは320mの事業区間で東京都が拡幅を行う。さらに西側の拡幅に対しては、次の事業化計画に位置づけられるよう、東京都に対し、働きかけていきたい。

2. ぶんバスの小型車両について

問) 北町ルートについて、小型車両の検討はどうなっているか? 市民の要望への対応を求める。都市建設部長) 北町ルートについては、可能性を検討しているが、小型車両については次の段階であると考えている。

田中) 今の車両の大きさでクリアできなければ、是非検討をし、柔軟に対応してもらいたい。

3. 文化財の活用について

問) 国分寺の文化財を広く周知できる資料やイベント等の現在の状況は?

教育部長) 文化財めぐりといったマップの配布をしているが、看板等の改良に検討の余地あり。

4. 総合博物館について

問) 国分寺にはアニメ制作会社や漫画家の方々が仕事をしていたり、ロケット開発の基礎になっている土地がある。双方にとってメリットとなるような協力を依頼しPRしてみてもいいか? その

為の総合的な博物館を検討していただきたい。市長) 市が持つ魅力を生かすことで発展していくと思う。財政的に可能な時期に実現を目指す。

度重なる方針変更 プランのもとに市政運営を

市民サイド 皆川 りうこ

心の健康づくり、メンタルヘルス 問) 市長は、市民の健康、社会的に弱い立場の人を守ることは市政の基本的な姿勢と述べた。自殺・虐待・DV問題等心の健康についても同様に捉え対応を。福祉保健部長) 窓口を含めきちんと対応したい。

問) 心の健康づくりは自殺対策且つ生きる支援だ。現在休止状態の「国分寺市民健康づくり推進会議条例」を活用し心の健康対策に取り組み。部長) 市民の健康づくりに向け検討を加えたい。

問) 訪問型(アウトリーチ)の支援と相談業務(ゲートキーパー)についての考え方は?

部長) 訪問支援の必要性を認識してもらおう。次年度もゲートキーパー養成講座への参加者募る。

伴侶動物 コンパニオンアニマル(ペット)

問) 心理的効果がある動物の存在は重要。災害時の避難所に移動する際の伴侶動物の対応は? 総務部長) 地域防災計画での運営マニュアルで動物の対応が位置づけあり。衛生面、アレルギー問題等対応策を検討し運営していきたい。

まちの活性化、観光事業の見直しを

問) 市内観光資源の有効活用、看板の充実、地図配布の工夫を。古い観光グッズには問題あり。市民生活部長) 検討課題だ。

数回にわたる施政方針変更 問) 施政方針P、市政運営D、評価C、改善Aの観点で見解を。

市長) 私自身や行政内部の問題があり修正した。今後避けなければならない。

問) 市政運営上、関係者との信頼関係は重要。情報公開や合意形成のあり方で危うい状態だ。市長) 関係機関と信頼関係を構築して運営する。

実態にあった公平な支援を!

市民サイド 亀倉 順子

年金記録改ざんなど相次ぐ公文書管理の不備により法制化が進み公文書管理法が制定、施行される。「情報の公開」と表裏一体の「公文書の管理」である。市民が正確な情報を知り、それに基づき判断し、主権を行使するのが民主主義であり自治の根幹であると考えている。市民の財産である公文書を管理・保存し後世に伝えることは自治体の責務。どの様に管理運用するか条例で定めることを提案する。

市長) 提案を受け止め、検討する。

問) 歴史的公文書の保存が不十分であり、選別など専門家が必要。保存場所など早急に検討を。市長) 市政運営の重要なことと認識している。専門家の配置など現状を精査し、考える。

問) 埋め立て不燃物搬入ゼロの自治体が7市ある。市の不燃物も年々減量している。週1回から隔週に変更することを提案する。

環境部長) 来年度、検討する。

問) 燃やしているマルチパックも再生可能であり回収ルートもある。是非取り組みを。

環境部長) 現古紙問屋では不可能だが検討する。問) ひとり親家庭対象の寡婦控除は未婚ひとり親家庭は適用外。保育料も大きな差がある。生

活の安定自立のため「みなし控除」の検討を。市長) 実態を認識した。早急に検討する。問) 「住民生活に光を注ぐ交付金」を生かし、DV対策に取り組み。自立支援プログラム、同行支援者養成や派遣など必要な事業だ。期限付である早急に意思表示を。市民部長) 実施の方向で調整する。

庁内戦略として ワーク・ライフ・バランスを

生活者ネット・市民クラブ 片畑 智子

問) ワーク・ライフ・バランスを質問すると、残業の削減や育児休暇の取得推進に取り組んでいると説明されるが、そんな狭義の概念ではない。庁内でワーク・ライフ・バランスに取り組むことによって、限られた時間の中で業務を効率的にこなす、心身の健康に留意する、生活者市民としての意識を育てる、家族との生活を大事にする、飲みニケーションもしかり、緩やかな時間と空間の中で職員それぞれが様々なことを感じ、吸収し、獲得していく余裕が生まれる。行政職員の仕事イコール市民の生活や人生にかかわること。その意義や重さを考えたときに、職員の資質として何が求められるのか。国分寺市役所として、そこに働く職員としての哲学を持つこと、それが国分寺市役所の生き残りにつながり、それが国分寺市全体の利益にもつながってくる。そのような大局的な観点から、職員の人材育成を考えていただきたいというのが今回の私の一般質問の趣旨であるが、いかがか。

市長) 今後求められるものとして、地方主権を担い得る職員、市民感覚・市民の目線に立った行政ができる職員、今まで以上の成果を生み出すために自主的に政策を考え創意工夫が図れる職員の育成が必要である。また、指摘のようなワークとライフのバランスをとることで、一層意欲的に仕事に取り組んでいける状況をつくっていかなくてはならない。

問) 市長も自覚しているように行政は様々な課題を抱えている。そういう意味からも改めて抜本的な改革、庁内システムの再構築を求める。

子育て・教育環境改善と 市内経済活性化

日本共産党国分寺市議団 やなぎ 孝義

《ひかり保育園民営化について》

問) 市長は「ひかり保育園の民営化は決定だ」と説明している。いつ決まったのか。

市長) 大方針として民営化を定めている。個別の施設についてはそれに基づき説明する。

※「『全体方針が決まっていれば、個別については市長の判断でよい』などという理念は自治基本条例にはない」と指摘し、公設公営で運営されている現状から出発して、市が公的責任を果たしていくことを求めました。

《市立学校への冷房設置について》

問) 多い日には70人以上もの子どもが、暑さから来る症状で保健室を利用した。設置者である市の責任についてどう考えるか。

教育長) 区部と多摩地区の冷房設置状況に大きな格差があり、対応を急がなければならないと考える。

問) 都が助成方針を決めた。市長の認識は。

次ページにつづく